

光ミュージアム 研究紀要 2024

HIKARU MUSEUM

第 2 号

令和 6 年

HIKARU MUSEUM



h-am.jp

目次

資料紹介

光ミュージアムのコレクションから見る

「源氏物語」「源氏物語と平安王朝展」によせて…………… 2

光ミュージアム 主任学芸員 今泉たまみ

報告

出張美術館による鑑賞教育の実践と効果アンケート調査結果より…………… 10

光ミュージアム 学芸員 稲垣 幸祐

〈資料紹介〉

光ミュージアムのコレクションから見る「源氏物語」 「源氏物語と平安王朝展」によせて

光ミュージアム 主任学芸員 今泉たまみ

『源氏物語』は、平安時代中期に紫式部が執筆した 54 帖からなる日本最古の長編小説で、恋愛、栄光と没落、政治的欲望と権力闘争など、平安時代の貴族社会が見事に書き上げられている。日本においてその物語は時代を超えて愛され、著名な場面が様々な美術工芸に取り上げられてきた。

令和 6 年は NHK の大河ドラマが「光る君へ」であったことから、光ミュージアムでは特別展として「源氏物語と平安王朝展」を開催し、当館のコレクション(浮世絵と日本画)を通して『源氏物語』をはじめとする平安時代の物語や伝説、王朝文化を紹介した。ここに、日曜・祝日に行った展示解説の内容を元に、光ミュージアムコレクションの資料紹介をする。

『源氏物語』の作者・紫式部は、10 世紀の後半頃、漢詩文家としても名高い藤原為時の娘として生まれた。物心つかぬうちに母を失い、父からの養育で当時女性には不用とされた漢詩文の教養を、幼少の頃から身につけてしまったという。結婚してわずか 3 年程で夫と死別、未亡人となった彼女は人間とは何かを考えるようになり、物語の執筆を始める。するとその評判は時の権勢家・藤原道長の耳にも届き、道長は彼女を一条天皇の中宮となった娘・彰子しょうしの家庭教師として仕えさせるのだった。こうして道長の支援のもとに、日本最古の長編小説『源氏物語』は完成したとされる。



「紫式部図」上村松園
大正 4～昭和 4 年頃

「紫式部図」 上村松園

本展のメイン展示としたこの作品は、研究者にも存在が知られていなかった幻の作品である。松園が昭和 8 年に制作した「月と花」は、新築のお祝い品として、徳川家より高松宮家へ献上された。左幅に月と紫式部、右幅に桜と伊勢大輔が描かれた一対の作品だが、現在その所在は明らかでなく、本図との関連性も考えられる。

満月を眺める立ち姿の紫式部。彼女は新しい物語を書くため石山寺(現・大津市)に参籠し、琵琶湖に映った中秋の名月を見て『源氏物語』の着想を得たとされているため、松園はこれを描いたのであろう。四つ菱や花菱か、窠えことばに霞文様などの装束の柄は、鎌倉時代の「紫式部日記絵詞」や「源氏物語絵巻」「佐竹本三十六歌仙絵巻」などに描かれたものと同じであり、松園が古典文学や古画などから得た、有職装束の確かな知識が反映されている。



「見立紫式部」歌川国久
江戸後期（享和～文化）

「見立紫式部」歌川国久

この絵は、江戸時代の浮世絵師・歌川国久が紫式部を描いたもの。多くは江戸時代に、庶民の生活を描いたのが浮世絵だが、この絵のように古典文学の題材を制作当時の人物や情景で描いたものもあり、これを“見立絵”という。

江戸期の女性を平安時代の紫式部に見立てているため、本来十二単じゅうにひとえを着て「おすべらかし」という下げ髪であるはずの紫式部が、渋い縦縞の着物に髷を結った姿で描かれている。背景に見える水面は琵琶湖であろう。石山寺で、琵琶湖に映える“中秋の名月”を眺めているうちに思いついたのは、『源氏物語』第12帖「須磨」だと伝えられている。



「はは木々」土佐光起
江戸前期（寛文頃）

「はは木々」土佐光起

この絵は、江戸時代初期に伝統的な「やまと絵」を描いて宮廷絵所えどころあずかり預を務めた土佐光起が、『源氏物語』第2帖「はは木々」を描いたもの。元々画帖だった54帖を切り離した内の1枚と考えられる。源氏物語画帖は土佐派の代名詞的画題であった。

ちなみに令和6年、大津市の石山寺では同絵師が描いた「紫式部図」が、期間限定で公開されたという。光源氏が17歳のある五月雨の夜、源氏のもとに集まった男たちは女性談議に花を咲かせる。この「雨夜の品定め」によれば、中流階級に魅力的な女性が隠れているとのこと。また、光源氏にとって最大のライバルでかつ大親友の頭中どうのちゅうじょう将は、この時自分には中流階級の愛

人がいて娘まであるが、二人は正妻からの迫害を恐れて行方知れずになってしまったと打ち明ける。

翌日、源氏は中川の紀伊守屋敷きののかみを訪ね、紀伊守の父・伊予介の若い後妻と出会って契りを結ぶ。源氏は中流階級のこの女性に惹かれ、その後何度か屋敷を訪れるが、女性は心の底では源氏に惹かれながらも己の立場をわきまえ、源氏に決して溺れてはならない、二度と会うまいと心に決めるのであった。ある晩源氏が忍び込むと、女性は気配を感じ、薄衣うすぎぬを寢床に脱ぎ捨てて姿を隠してしまう。脱ぎ捨てられた薄衣を握りしめ、源氏が詠んだ和歌からこの女性は空蟬うつせみと呼ばれる。

「空蟬の 身をかへてける 木のもとに なお人がらの なつかしきかな」

(蟬が殻を脱ぐように薄衣だけを残して消えて行ったあなたを、私はやはり慕わしく思っている)

尚「はは木々」というのは、延喜年間(901～923)に現在の長野県下伊那郡阿智村園原に自生していたというヒノキのこと。遠くからは箒を立てたように見えるのに、近づく見えなくなってしまうという。第2帖のタイトルは、光源氏が空蟬のことを「はは木々」に例えて詠んだ和歌に由来する。

「^{ははきぎ}帚木の 心を知らで 園原の 道にあやなく 惑いぬるかな」

(近づけば消えるという帚木のような、あなたの心も知らないで近づこうとして、園原への道に空しく迷ってしまったことだ)

「見立源氏物語 夕顔」 作者不詳



「見立源氏物語 夕顔」 作者不詳
江戸前期

この絵は江戸時代の浮世絵師(作者不詳)が『源氏物語』第4帖「夕顔」を描いたもの。光源氏を平安時代の装で、夕顔を江戸前期の風俗で描いた“見立絵”である。

17歳の光源氏は病気の乳母を見舞った折、隣家の垣根に咲く夕顔の花に目を留めた。乳母の息子でもある従者・^{これみつ}惟光に「一つ折ってまいれ」と命じると、家の中から可愛らしい少女が出てきて、香を焚きしめた白い扇を手に「この上に花を載せて差し上げてください」と言う。扇には風流な筆跡で「心あてにそれかとぞ見る 白露の 光そへたる 夕顔の花」

(もしかして源氏の君でしょうか。白露に濡れた夕顔の花のように美しいそのお顔は)と書かれているではないか。女性の教養の高さに興味を持った源氏が、垣根からのぞいているのがこの場面。

源氏は惟光に手引きをさせ、苦心の末、夕顔の咲く家の女「夕顔」のもとに通うようになる。源氏はひた隠しに自分の身分を隠し、女も決して素性を明かさなかったが、その女とは、実は源氏の親友でライバル・頭中将の愛人「常夏の女」なのであった。

ある日、源氏は夕顔を寂れた旧邸に連れ出し、心ゆくまで打ち解けるが、その晩夕顔は物の怪に^{たまかづら}取りつかれて急死してしまう。頭の中将と常夏の女(夕顔)との間に生まれた娘・玉鬘はこの時3歳、母亡き後は乳母によって筑紫で育てられることになる。

忍びの恋によって悲劇を招いてしまった源氏は夕顔の素性を知り、せめて玉鬘を形見として引き取りたいと考えるが、すぐにはかなわず、玉鬘が20歳の時にようやく養女として六条院に迎え入れるのだった。



「扇夕顔の図」 作者不詳
江戸初期

「扇夕顔の図」 作者不詳

この絵は『源氏物語』第4帖「夕顔」の中で、夕顔の花をのせた扇を描いたものであろう。作者は不詳だが、左下に「伊年^{いねん}」印があることから、俵屋宗達もしくは宗達工房の作と考えられる。絵と比較して落款が若干大きく感じられることから、大きな作品の一部かもしれない。



「見立源氏物語 若紫」 作者不詳
江戸中～後期(宝暦12～天保)

「見立源氏物語 若紫」 作者不詳

これは『源氏物語』第5帖「若紫」を江戸期の装いで描いた“見立絵”である。光源氏の父・桐壺帝は「桐壺の更衣」を寵愛し、二人の間に誕生したのが輝くように美しい皇子・光源氏。しかし桐壺の更衣は源氏が3歳の時、他の妃からの異常なまでの嫉妬や嫌がらせにより、心労で亡くなってしまった。桐壺帝は深く嘆くが、桐壺の更衣に生き写しの「藤壺」を后として寵愛し、源氏は亡き母の面影を求めて藤壺を慕う。

18歳の源氏は病を患い、加持のために訪れた北山の庵で、可憐な少女が下女の逃した雀を惜しんでいる姿を垣間見て目が釘付けになった。彼女の顔が、慕い続けている藤壺によく似ていたからである。それもそのはず、その少女「若紫」は藤壺の姪なのだった。やがて源氏は彼女を自邸に迎え入れ、理想の女性に育て上げて妻の座におく。そして正妻「葵の上」の亡き後は、正妻同様の扱いで「紫の上」と呼ぶようになる。



「紅葉賀」 今井俊満
平成元(1989)年

「紅葉賀(もみじのが)」 今井俊満

1950年代後半に前衛芸術運動「アンフォルメル」の主要メンバーとして活躍し、パリをはじめヨーロッパやアメリカで多くの発表歴・受賞歴を持つ今井俊満。彼は80年代の後半になると、伝統的な日本の美の形式で華麗な作品を生み出すようになる。10歳でシェイクスピア全集を読破、16歳の時には1年に1000冊もの本を読み、世界のあらゆる書物を読み漁った彼は、自作のタイトルの多くを文学から引用している。この絵のタイトルも『源氏

物語』からの引用であろう。

アクリル絵の具で描かれた作品でジャンルが違うため、本展では特別展の展示室ではなく、ホールに展示した。抽象的な作品だが、型押しされた青海波文様が「源氏物語」を暗示している。

『源氏物語』第7帖「紅葉賀」には、光源氏 18 歳の秋からの 1 年間の出来事が書かれている。幼くして母を亡くした源氏は亡き母の面影を求め、父・桐壺帝の最愛の後である藤壺を慕う。そして密会の果てに藤壺は源氏の子を身籠る。この巻のハイライトは、光源氏が恋い慕いながらも逢えず、しかも今御簾の奥にいる藤壺に想いを馳せつつ「青海波の舞」を舞う場面。藤壺は源氏との不義によって帝を裏切った運命の痛恨を抱えながら、その輝くばかりの舞を御簾ごしに見つめるのだった。



「源氏物語 藤袴図」宮川長春
江戸中期（宝永～寛延頃）

「源氏物語 藤袴図」 宮川長春

これは『源氏物語』第 30 帖「藤袴」を、江戸期の装いで描いた“見立絵”である。光源氏 37 歳の秋、源氏にとっては叔母であり、かつ義理の母にあたる大宮が亡くなり、光源氏の息子・夕霧や、光源氏の娘として引き取られた玉鬘らは孫として喪に服す。夕霧は玉鬘が実は自分とは異母兄妹でないことを知り、藤袴の花を一枝御簾に差し入れて、かねてから思いを寄せていた彼女に告白する。絵の上部には、その時夕霧が詠んだ歌が書かれている。「おなじ野の 露にやつるる ふじばかま あはれはかけよ かごとばかりも」

（あなたと同じ野の露でしおれている藤袴、祖母の死を悲しむ私に、同じ大宮の孫であることを口実に、申し訳程度でもいいから情けをかけてください）

しかし玉鬘は、孫同士だからといって情けをかける口実にはならないと、やんわりと断るのだった。



「春紅」 佐多芳郎
昭和 59 (1984) 年

「春紅」 佐多芳郎

『源氏物語』は、第1部(第1～33 帖)が光源氏の誕生から出世、第2部(第34～42 帖)が出家から死、そして第3部(第43～54 帖)は光源氏の子孫の物語という3部構成になっている。

安田鞆彦に師事し、院展の日本画家として多くの歴史画を残した佐多芳郎。本展では、この絵の紅梅と文を持って座っている人物を『源氏物語』第43 帖「紅梅」の中心人物・按察大納言として紹介した。
あぜちのだいながん

光源氏の親友でありライバルでもあった亡き頭中將の次男・按察大納言は、自身の次女・中の君と光源氏の外孫・匂宮におうのみやとの縁談をもくろんでいた。そこで自邸に匂宮を誘うため、庭先の香しい紅梅を一枝折って、和歌と共に彼のもとへ届けさせるのだった。

「心ありて 風のにおわす 園の梅に まず鶯の とはずやあるべき」

(香しい梅には鶯が飛んできて当然、飛んでこないなんてことがありますか)



「逢坂山」 月岡雪斎
江戸中～後期
(安永～天保 10 年)

「逢坂山」 月岡雪斎

これは江戸中期の浮世絵師・月岡雪斎が、交通の要衝で関所でもあった逢坂山(現・滋賀県大津市)を描いたもの。『源氏物語』に直接取材した作品ではないが、平安貴族の様子が繊細な筆致で見事に表現されている。古代より、京から東国へ、また東国から京へと向かう旅人は、必ずと言っていいほどこの逢坂山を越えた。その為人々の出会いと別れの場所として逢坂山は様々な古典文学に登場し、『源氏物語』でも第10帖の「賢木」と第16帖の「関屋」に出てくる。そこで、展示解説ではここでそれらを紹介した。

日本最古の長編小説といわれる『源氏物語』は、文字数としては100万字、400字詰原稿用紙にして2400枚分に相当するという。約70年間にわたるストーリーに450人以上が登場し、紫式部は物語の中で彼らに795首もの和歌を詠ませている。

第 10 帖「賢木(さかき)」と逢坂山

光源氏が心を寄せた女性は 13 人。その中には未亡人もいる。光源氏の父・桐壺帝の時代に東宮の妃であった六条御息所^{ろくじょうのみやすどころ}である。東宮の方が帝より先に亡くなってしまい、未亡人となった彼女と光源氏は恋愛関係に陥るが、教養・知性・矜持の高い彼女をやがて源氏は持て余すようになり、逢瀬もなくなっていく。六条御息所は源氏を思うばかり、肉体から魂がさまよい出て物の怪となり、ついには源氏の正妻・葵の上を殺してしまった。この事件以来、源氏との仲が元に戻らぬことを悟った彼女は、想いを絶ちきるため、娘と共に伊勢へ下る決意をする。源氏はさすがに未練を抑えがたく、9 月の上旬に御息所を訪ね

「行く方を ながめもやらむ この秋は あふさか山を 霧な へだてそ」

(あなたの行く方を眺めていよう。だから今年の秋は、霧よ どうか逢坂山を隠さないで)と詠むのだった。

第 16 帖「関屋」と逢坂山

第 3 帖「空蝉」で光源氏と一夜の契りを交わした空蝉は、夫の赴任に伴い京を離れていたが、任期を終えた夫と共に京へ帰る途中、偶然にも逢坂の関で光源氏一行とすれ違う。源氏は空蝉のことをしみじみと思い出し、彼女の弟に手紙を託す。その後二人は文を交わすようになり、やがて夫を亡くし出家した空蝉を、源氏は自身が住む二条東院の北の対に住まわせるのであった。

終わりに

この度、NHK の大河ドラマ「光る君へ」に合わせて本展覧会を開催し、光ミュージアムの絵画コレクションを通して『源氏物語』を紹介することができたことを大変嬉しく思う。上村松園には珍しい平安の女性像、浮世絵師・月岡雪斎の筆による精緻な平安貴族、江戸期の人物を源氏物語に見立てた作者不詳の浮世絵など、異色な取り合わせによる構成で、54 帖全てを網羅するものでもなかったが、多様なコレクションを持つ故にできた展覧会であり、絵巻物とはひと味違う、様々な絵画から文学を読み解く楽しさを、来館者と共有できたと自負している。中には 40 分を超える展示解説に何度も足を運んで下さったりピーターもいらっしやり、この場を借りてご来館くださった全ての皆様に深くお礼を申し上げますとともに、今後も時勢を鑑みながら、可能な限り来館者にお楽しみいただける展覧会の開催に努めていきたいと思う。

参考文献

『源氏物語ものことひと事典』朝日新聞出版

『源氏物語 煌めくことばの世界』原岡文子著 川添房江編 輪林書房

『源氏物語 歌ことばの時空』飯塚ひろみ著 輪林書房

『人物で読む源氏物語 第1巻 桐壺帝・桐壺の更衣 上原作和編集 勉誠出版

『人物で読む源氏物語 第3巻 夕顔 上原作和編集 勉誠出版

『人物で読む源氏物語 第5巻 葵の上・空蝉』上原作和編集 勉誠出版

『人物で読む源氏物語 第13巻 玉鬘』上原作和編集 勉誠出版

『別冊太陽 日本のこころ 140 王朝の雅 源氏物語の世界』鈴木日出男 監修・執筆 平凡社

〈報告〉
出張美術館による鑑賞教育の実践と効果
アンケート調査結果より

光ミュージアム 学芸員 稲垣 幸祐

1. はじめに

当館では、市内の小・中学校に美術品を持ち込み、本物に触れる機会を提供することで、児童・生徒に優れた作品から感動や喜びを体験させることを目的とした出前授業「出張美術館」を開催している。この取り組みは令和 6 年に 21 年目を迎える。図工・美術の鑑賞教育を支援するため、学校と連携し、10 月から 12 月の約 3 か月間にわたり実施した。

出張美術館を通じて、子供たちが日本の歴史や芸術文化に触れ、和やかな心と豊かな感性を持った人間に成長することを願っている。また、交通の不便さを少しでも解消し、多くの人々に美術鑑賞を楽しんでももらいたいと考えている。

そこで、授業内容が目的に沿ったものであるかを確認し、必要に応じて今後の改善を図るべく、出張美術館に参加した教員・児童・生徒に対してアンケート調査を行った。その結果をまとめたので、ここに報告する。

なお、授業内容については、光ミュージアム年報(光ミュージアム,2025)と光ミュージアム研究紀要第 1 号(稲垣,2024)を参考されたい。

2. 調査方法・結果

アンケート調査は、高山市内で出張美術館を行った小・中学校の教員(資料 1)・小学校児童(資料 2)・中学校生徒(資料 3)それぞれを対象に実施した。出張美術館の前後に先生にアンケート用紙を託し、参加者に配布、アンケート回答の猶予を考慮し、約 1 週間後に各学校に用紙の回収に伺った。

アンケートの結果は下記のとおりである。

教員用アンケート設問内容

Q1.出張美術館はいかがでしたか？

①大変良い ②良い ③普通 ④悪い

Q2.授業内容(解説)はいかがでしたか？

①大変分かりやすい ②分かりやすい ③普通 ④分かりにくい

Q3.授業の時間はいかがでしたか？

①長い ②ちょうど良い ③短い

Q4.今後も出張美術館を利用したいと思いますか？

①利用したい ②利用したくない→よろしければ下記に理由をお聞かせください

Q5.今後の授業内容にご要望はありますか？

(記述式)

Q6.その他ご意見ご感想があればお書きください。

(記述式)

教員アンケート結果

	①	②	③	④	回答数
Q1	26	2	0	0	28
Q2	24	4	0	0	28
Q3	3	25	0	—	28
Q4	28	0	—	—	28

小学校児童用アンケート設問内容

Q1.今までに本物の浮世絵(版画)を見たことがありますか？

①はい ②いいえ

Q2-1.「出張美術館」より前に、世界でも有名な「葛飾北斎」・「歌川広重」などを知っていましたか？

①はい ②いいえ

Q2-2.「はい」と答えた人は誰を知っていますか？知っている人に○を付けて下さい。

①北斎 ②広重 ③写楽 ④歌麿

Q3.今回の「出張美術館」を受けて「浮世絵」に興味を持ちましたか？(1つのみ○)

①興味を持った ②興味を持てなかった ③もっと知りたい ④その他

Q4.日本の伝統文化を学び、どう思いましたか？(1つのみ回答)

①誇りに思う ②守っていききたい ③興味を持った ④全く興味がない ⑤その他

Q5.感想

(記述式)

小学校児童アンケート結果

	①	②	③	④	⑤	回答数
Q1	138	473	－	－	－	
Q2-1	426	182	－	－	－	608
Q2-2	340	335	22	47	－	744
Q3	461	26	119	5	－	611
Q4	230	268	103	9	2	612

中学校生徒用アンケート設問内容

Q1.小学校の時、光ミュージアムの出張美術館の授業を受けましたか？

①はい → Q2 へ ②いいえ → Q4 へ

Q2.見た作品は何だったか覚えていますか？

①歌川広重「東海道五十三次」 ②葛飾北斎「富嶽三十六景」

③歌川広重「不二三十六景」 ④ 覚えていない

Q3.色摺版画の体験をしたことを覚えていますか？

摺った版画のシリーズは何でしたか？次の作品名から選んでください。

①歌川広重「東海道五十三次」 ②葛飾北斎「富嶽三十六景」

③歌川広重「不二三十六景」 ④覚えていない

Q4.今回の授業の中で興味をもったものは何ですか？（複数回答可）

①浮世絵版画 ②肉筆浮世絵（手描きの1点もの）

③日本画の画材 ④江戸時代のファッション（髪型、化粧、花魁など） ⑤その他

Q5.日本の伝統文化を学び、どう思いましたか？（1つのみ回答）

①誇りに思う ②興味を持った ③全く興味がない ④その他

Q6.日本の伝統文化を大切にしたいと思いますか？

①はい ②いいえ

Q7.感想

（記述式）

中学校生徒アンケート結果

	①	②	③	④	⑤	回答数
Q1	357	33	－	－	－	390
Q2	205	128	7	14	－	354
Q3	56	278	8	5	－	347
Q4	189	82	193	123	2	589
Q5	199	183	6	3	－	391
Q6	388	2	－	－	－	390

教員用【光ミュージアム出張美術館】に関するアンケート

本日は、「出張美術館」をご利用頂きましてありがとうございました。
今後の参考のため、アンケートにご協力をお願い致します。

授業日：令和 6 年 月 日

学校名：

1. 出張美術館はいかがでしたか？
 - ① 大変良い
 - ② 良い
 - ③ 普通
 - ④ 悪い
2. 授業内容(解説)はいかがでしたか？
 - ① 大変分かりやすい
 - ② 分かりやすい
 - ③ 普通
 - ④ 分かりにくい
3. 授業の時間はいかがでしたか？
 - ① 長い
 - ② ちょうど良い
 - ③ 短い
4. 今後も出張美術館を利用したいと思いますか？
 - ① 利用したい
 - ② 利用したくない → よろしければ下記に理由をお聞かせください
5. 今後の授業内容にご要望はありますか？
6. その他、ご意見ご感想があればお書き下さい。

令和 6 年 月 日

小学校用【光ミュージアム出張美術館】アンケート

小学校 年 組 男・女

アンケートにご協力をお願い致します。

Q1: 今までに本物の浮世絵(版画)を見たことがありますか？

- ① はい
- ② いいえ

Q2: 「出張美術館」より前に、世界でも有名な「葛飾北斎」・「歌川広重」などを知っていましたか？

「はい」と答えた人は誰を知っていますか？知っている人に○を付けて下さい。

- ① はい → (①北 斎 ②広 重 ③写 楽 ④歌 磨)
- ② いいえ

Q3: 今回の「出張美術館」を受けて「浮世絵」に興味を持ちましたか？(1つのみ○)

- ① 興味を持った
- ② 興味を持てなかった
- ③ もっと知りたい
- ④ その他()

Q4: 日本の伝統文化を学び、どう思いましたか？(1つのみ回答)

- ① 誇りに思う
- ② 守っていきたい
- ③ 興味を持った
- ④ 全く興味がない
- ⑤ その他()

Q5: 感想

令和 6 年 月 日

中学校用【光ミュージアム出張美術館】アンケート

中学校 年 組 男・女

アンケートにご協力をお願い致します。

Q1: 小学校の時、光ミュージアムの出張美術館の授業を受けましたか？

- ① はい → Q2 へ
- ② いいえ → Q4 へ

Q2: 見た作品は何だったか覚えていますか？次の作品名から1つ選んでください。

- ① 歌川広重「東海道五十三次」
- ② 葛飾北斎「富嶽三十六景」
- ③ 歌川広重「不二三十六景」
- ④ 覚えていない

Q3: 3色摺版画の体験をしたことを覚えていますか？摺った版画のシリーズは何でしたか？

次の作品名から選んでください。

- ① 歌川広重「東海道五十三次」
- ② 葛飾北斎「富嶽三十六景」
- ③ 歌川広重「不二三十六景」
- ④ 覚えていない

Q4: 今回の授業の中で興味をもったものは何ですか？(複数回答可)

- ① 浮世絵版画
- ② 肉筆浮世絵(手描きの1点もの)
- ③ 日本画の画材
- ④ 江戸時代のファッション(髪型、化粧、花魁など)
- ⑤ その他()

Q5: 日本の伝統文化を学び、どう思いましたか？(1つのみ回答)

- ① 誇りに思う
- ② 興味を持った
- ③ 全く興味がない
- ④ その他()

Q6: 日本の伝統文化を大切にしたいと思いますか？

- ① はい
- ② いいえ

Q7: 感想

3. 教員、児童、生徒の反応・考察

教員アンケート結果より

教員の方々からは、授業内容・時間配分・今後の利用希望など、良好な反応を得られた。これは、これまで 20 年間にわたり教員の方々のご理解ご協力をいただき、授業内容をブラッシュアップしてきた結果であり、貴重なご意見をお寄せいただいた教員の方々、これまで携わった出張美術館の担当者の尽力の賜物であると感謝したい。

教員の方々のご意見、ご感想と改善点

「ほぼ一日生徒たちにご指導いただき有難うございました。指導していただいた内容が豊富で子供たちにとって十分な指導であったと思います。ありがとうございました。」

「浮世絵の作品を紹介で、細かな部分を見せたいとき、その部分のみを拡大した写真などを示すと、近くの生徒だけでなく見ている生徒全員にわかりやすくなると思います。」

「本物の力はすごいと感じる1日でした。色々なことに興味を持つ年頃なのでどの話をしても楽しそうでした。」

「丁寧にわかりやすく解説してくださり、ありがとうございました。子どもも「わかりやすかった!」と感動していました。浮世絵を摺る体験が貴重な体験で良かったです。」

「本物に触れることは貴重なことです。とてもありがたいです。美術というだけでなく社会での学びが「つながる」「深まる」時間でした。ありがとうございました。」

等々、貴重なご意見、ご感想をいただいた。

教員アンケートの考察

おむね良好な反応をいただいた。

一方、今後の改善点として、浮世絵版画を見ながら説明をする際の、大人数のクラスでの対応についてご意見をいただいた。高山市は山間地域と市街地の学校があるため、クラスの人数が片手で数えられるところもあれば、40 人近くのところもある。学校、クラス間で人数に差があるため、同じ手順で作品解説した場合、大人数のクラスの場合、説明を聞くポジションによって解説箇所を近くで見られないという状況が発生していた。対策として①ご提案の通り解説用に拡大写真を用意する、②解説員の増員と養成も兼ねて作品解説の場所を 2 つに分けてより近い場所で鑑賞と解説ができるようにする。現段階ではこの 2 案が考えられる。ただし、②については、通常業務との兼ね合いがあるため、人員を割く余裕があれば、という条件付きでの対応になるが、今後出張美術館を担う新しい人材を育成するという観点から、他の館員にも協力を得られるよう努めていきたい。

小学校アンケート結果より

Q1.

「はい」と回答した児童が138人(22.6%)、対して「いいえ」が473人(77.4%)であり、多くの児童が本物の浮世絵を見たことがないことが明らかになった。

Q2-1.

「はい」と答えた児童が426人(70.1%)、「いいえ」が182人(29.9%)で、浮世絵の著名な作家についての認知度は高い。

Q2-2.

北斎(340人)、広重(335人)、写楽(22人)、歌麿(47人)と、北斎と広重の知名度が特に高いことが示された。

Q3.

「興味を持った」が461人(75.5%)、興味を持てなかったが26人(4.3%)、もっと知りたいが119人(19.5%)で、出張美術館が児童の興味を引き出す効果があった。

Q4. 日本の伝統文化についての感想

「誇りに思う」が230人(37.5%)、守っていきたいが268人(43.8%)、興味を持ったが103人(16.9%)、全く興味がないが9人(1.5%)で、伝統文化への肯定的な意識が強い。

児童の感想

「葛飾北斎の版画をしたり、他の版画の歴史を学んで図工には社会も繋がっていてすごいと思いました。これからはいろんなことについて学んでいきたいです。」

「最初はどんなのなんだろうと思ったけど東海道五十三次の作品を見て、上手な絵だなーと思ったし、ほかしているところがすごいと思った。版画をしてみて色づかいなどがけっこうむずかしくてこんなすごいのを作っていたのかとびっくりした。」

「今まで本物の浮世絵を見たことがなかったので、今回見れてとても良かったです。版画も貴重な体験ができてうれしかったです。社会の授業で知りきれなかった話を知れて、浮世絵に興味を持ってました。また浮世絵のことを深く知れたので、日本の伝統文化を誇りに思うし、私たち日本人が大切に守っていかなくちゃと思いました。今回はありがとうございました。」

「私は今日浮世絵を見て、とてもすごい技術だと思ったし細かいところまでとても丁寧に彫ってあってすごいと思いました。それぞれ1つ1つの浮世絵にとっても魅力を感じました。本物の浮世絵を実際に見てとても貴重な体験になりました。社会などで浮世絵のことを学んでいたけれど今回の出張美術館でさらに日本の伝統文化に興味を持ちました。」

「浮世絵には興味がなくて、でも今日光ミュージアムのみなさんのお話を聞いて少しだけ浮世絵に興味が出ました。」

「今まで日本は小さい国だから誇れることもあまりないと思っていたけど本当は浮世絵などの外

国がすばらしいと思えるようなものがあると知ってうれしかったし、日本は小さい国だけど誇れることがあってすごい国なんだなって思えるようになりました。」

「普段体験できないような貴重な体験と学びをありがとうございます。私は社会が大好きです。歴史に特に夢中になっています。日本独自の文化が好きでして、自分自身が地元のお祭りなどに参加していることもあり、日本が世界に誇れる浮世絵を日本人が魅力を知るという事は大切だと感じます。あんなに浮世絵は繊細なのかと感化されました。もっともっと日本の文化伝統を知ろうと思います。」

小学校アンケート調査の考察と今後の展望

出張美術館の取り組みは、児童にとって日本の芸術文化に実際に触れるまたとない機会となった。特に、教科書に登場する人物が関わった“本物の作品”を間近で見る体験は、児童が芸術文化や歴史に対して具体的な理解と感動を得る上で、非常に有効であると実感した。

なかでも、浮世絵に関する児童の反応は顕著であった。事前には「見たことがない」とする児童が多くいた一方で、北斎や広重といった著名な浮世絵師については高い認知度を示しており、授業後には「面白かった」「もっと知りたい」といったポジティブな感想が多く寄せられた。このことから、実物鑑賞は芸術に対する興味を喚起する効果的な方法であるといえる。

児童の感想からは、浮世絵の技術や歴史についての新たな発見に加え、社会科など他教科とのつながりを実感する声も見受けられた。単なる鑑賞にとどまらず、教科横断的な学びを引き出す可能性を持っていることを示唆している。

アンケート結果全体からは、体験型の教育プログラムが児童の好奇心を刺激し、伝統文化への理解を深めるうえで有効であることが確認された。今後もこのような出張美術館の取り組みを継続し、より多くの児童が日本の伝統文化に親しみをもち、芸術や歴史に対して豊かな関心を持続ける機会を提供できるよう努めたい。

中学校アンケート結果より

Q1.

「はい」と回答した生徒が 357 人(91.5%)と非常に多く、多くの生徒に出張美術館の記憶が残っていることが分かる。

Q2.

小学校の出張美術館で持参した作品は歌川広重の「東海道五十三次」であった。歌川広重「東海道五十三次」が最も記憶されており、205 人(57.9%)が回答。葛飾北斎「富嶽三十六景」の回答が 128 人(36.2%)で、おそらく版画の摺り体験と混同したものである。

生徒たちにとっては数年前の一度きりの授業であったが、作品の印象が強く残っていることが分かる。

Q3.

実際に行った版画の摺り体験は、葛飾北斎の「富嶽三十六景」であった。

葛飾北斎「富嶽三十六景」が最も多く選ばれ、278 人(80.1%)が回答。

歌川広重「東海道五十三次」は 56 人(16.1%)と少数。

こちらは Q2 と比較して正答率が高かった。実際に体験したことと、各自で作った作品を持ち帰ることができたことで、比較的鮮明に記憶が残っているようである。

Q4. 興味を持ったもの

浮世絵版画(189 人、32.1%)と日本画の画材(193 人、32.7%)が特に人気。

江戸時代のファッション(123 人、20.9%)も一定の関心を集めている。

Q5. 日本の伝統文化への感想

「誇りに思う」(199 人、50.9%)と「興味を持った」(183 人、46.8%)が大半を占める。

「全く興味がない」(6 人、1.5%)は非常に少数。

Q6. 日本の伝統文化を大切にしたいか

「はい」と回答した生徒が 388 人(99.5%)と圧倒的多数。

「いいえ」と回答した生徒は 2 人(0.5%)であり、伝統文化への関心が非常に高い。

生徒の感想など

「私は、日本人なのに日本画のことをあまり知らず、今日知ることができてよかったです。また、浮世絵版画を近くで見ると、すごく細かくてびっくりしました。画材は、知っている筆とかもあったけど、知らないものがほとんどで知れてよかったです。ラピスラズリとかが材料となっていてびっくりしたし、天然の物やガラスで同じものでも少しずつ違って面白かったです。」

「日本の絵を描くときの画材なんていままで見たことなかったし、髪型はテレビや本の中でしか見たことがなかったので見れて良かったです。すごい複雑な形の髪型ですごい技術の人がいたんだなと思いました。画材も、自然を使って工夫してやっているのが昔の人はすごいなと思いました。日本にはこんなにすごいものがあるというのを知って伝統文化は大切にしていきたいです。」

「今日の話を聞いて、日本の伝統文化にもっと興味を持つことができたし、小学校のころよりも詳しく知れたので良かったです。」

「たくさんの版画を見て、すごく細かいし、色がたくさん使われていてすごいと実感できました。浮世絵にはたくさんの道具を使ったり何時間もかけて描いたんだと知り、前より少し興味を持つことができたので良かったです。これからも日本の伝統文化を大切にしていきたいです。」

「浮世絵について色々と詳しく知ることができたし、浮世絵がどうやって描かれているのかも詳しく知ることができたので良かったです。おかげで日本の伝統文化に興味を持つことができたし、いろ

んなことを知ることができて楽しかったです。」

「自分は最初日本の髪型はちょんまげしか知らなかったけど色々な髪型があるんだなと思ったしとても興味深いなって思いました。あと絵の具にいろんな鉱石とか植物を使われててそれも面白くなって思いました。」

「私は、日本人なのに日本画のことをあまり知らず、今日知ることができてよかったです。また、浮世絵版画を近くで見ると、すごく細かくてびっくりしました。画材は、知っている筆とかもあったけど、知らないものがほとんどで知れてよかったです。ラピスラズリとかが材料となっていてびっくりしたし、天然の物やガラスで同じものでも少しずつ違って面白かったです。」

「日本画の画材を実際に触らせてもらえて、楽しく学ぶことができました。作品だけでなく遊女の髪型なども見せてもらえていい経験になりました。聞かせてもらった話はほとんどすべてが知らない話で面白かったです。この授業の前より日本の伝統文化への興味がわいたり、知識が増えたので良かったです。」

「日本画の画材にはどんなものが使われているか、というのが知れて勉強になった。浮世絵が描かれた時代背景を知って、もっといろいろな絵について知ってみたいと思った。」

中学校アンケート調査の考察と今後の展望

小学校時代に光ミュージアムでの授業を経験した生徒の多くが内容を記憶しており、出張美術館が記憶に残る有効な教育活動であることが示唆される。また、浮世絵や日本画の技法・画材、江戸時代のファッションなどへの関心が高く、児童の伝統文化への理解を広げるきっかけとなっており、授業を通じて日本文化への誇りや文化保存の意識が育まれている様子が見受けられる。

また、実物に触れる体験が深い理解を促す効果が確認された。授業を通して「もっと知りたい」と感じる生徒が多く、学びの継続性や探究心の醸成にもつながっている。浮世絵の技術だけでなく歴史的・社会的背景にも触れることが、より深い学びを導くと考えられる。今後はこうした内容をさらに充実させ、生徒の文化的理解とアイデンティティ形成を支える機会を拡充していくことが求められる。

4. まとめ

光ミュージアムでは、日本の伝統文化や芸術に興味を持つきっかけづくりを目的として、市内の小学校や中学校に美術品を持ち込み、児童・生徒が本物の作品に触れることができる「出張美術館」の授業を20年以上実施してきた。

授業の効果を確認するために、教員や児童・生徒に対してアンケート調査を実施した。その結果、教員からは授業内容や時間配分が適切であったという意見が多く、今後も出張美術館を利用したいという回答が目立った。小学生のアンケートでは、多くの児童が「本物の浮世絵を見るのは初めてだった」と答え、そこから関心を持ったことが明らかになった。出張美術館のような授業は、視覚や触覚を通して作品に直接ふれることができるため、理解が深まりやすいと考えられる。また、日本

の伝統文化に対して「誇りを感じる」「大切にしたい」と答える児童・生徒が多く見られ、授業が文化的な意識の醸成に役立っているといえる。

中学校のアンケートでは、小学校での授業がどの程度記憶に残っているかを追跡することができ、授業の長期的な教育効果を確認する手がかりも得られた。また、日本画の画材や浮世絵の人物の髪型など、鑑賞についてより細部まで生徒たちの目が向き、日本美術について興味と関心を示していることがわかった。

教員の方々のご意見や児童・生徒たちの反応を見ながら、その都度授業内容をブラッシュアップし続けてきた出張美術館であるが、今回のアンケート調査を機に、小学校・中学校それぞれで完結する授業ではなく、小学校での学びを土台として、積み重ねと繋がりを持った中学校の授業を構成していくことで、より充実した授業を展開し、日本美術への興味と感心を喚起することができると期待される。このような学びを経て、大人になった高山市民が光ミュージアムにまた来館したくなるような取り組みを進めていきたい。

5. 謝辞

本活動の実施にあたり、多大なるご支援とご協力を賜りました高山市教育委員会、ならびに授業を受け入れてくださった各校の先生方、児童・生徒の皆様にご心より御礼申し上げます。

本報告書の内容は、皆様からいただいた貴重なご意見・ご感想をもとに作成されたものであり、厚く感謝申し上げます。

参考文献

光ミュージアム「出張美術館」『光ミュージアム年報』第16号 2025 40-41

稲垣幸祐「中学校出前授業「光ミュージアム出張美術館」における日本画の画材の紹介についての事例報告」『光ミュージアム研究紀要』第1号 2024 18-22

令和 6 年 光ミュージアム 研究紀要 第 2 号

令和 7 年 3 月 31 日発行

編集・発行 光ミュージアム

〒506-0051 岐阜県高山市中山町 175

TEL 0577-34-6065

FAX 0577-34-6065

<http://h-am.jp>